


## 令和元年度 「課題探究入門講座」 実施報告書

講座番号： 1 1	探究活動「紙コップの不思議を探る」	担当者名： 小野 泉
実施日： 8月 6日 ( 火 ), 場所： 物理実験室		
参加生徒数： 1 8 名	評価点(20点満点)平均： 1 7 . 4 点	
<p><b>特徴的な生徒の記述</b></p> <p>○ これまで「実験」というと、あらかじめ用意された道具や手法を使って行うだけだったので、今回のように道具も手法もとても自由で、さらに目的も曖昧な実験を行うのは新鮮な体験だった。実験の結果からどのようなことが分かるのか、次にどのようなことを証明するためにどんな実験をするかを柔軟にそして論理的に考えることや、探究活動の仮説から結論、そして振り返りまでの流れを身につけることができたと感じた。「探究」することはこれまでのように「実験」するよりも、手段も道具も自由なので、今日の実験のように、目的を明確にして、それを求めるための道のりも定めていくことを大切にしたいと感じた。</p> <p>○ 自分で考えて、人と共有して、ということをくり返しなが課題を解決していこうとする中で、思ったことを思ったままに実験するのではなく、実験結果に対する理由や新たに生まれた疑問を整理しながら順序立てて考えて解決していくことが大切だと思った。また、グループで、解決しようと考えたり中間発表などで共有したりすることで、新しい視点や考え方から課題を考え、さらに発展させていくことができたので、コミュニケーションの大切さを改めて感じた。</p> <p>○ まずは仮説をたてることがとても重要だと思った。そこから話が進み、あらたな矛盾や疑問が生まれ結論に近づいていくので、最後にまとめるときもすごく楽しかった。しかし、仮説設定をおろそかにすると台無しになってしまうので、しっかり考えてから決定することが重要だと思った。また、実験を行う上で、常に目的を忘れないことがとても重要だと気づいた。目的は、どんな実験にするか、結果からどんなことが分かるのかを整理するときにとっても役立つ。また、最後の結果を発表するときに、そこに至るまでのプロセスがあると相手に納得してもらえることも分かった。</p> <p>○ 講座が始まって、先生に「なんで？」と聞かれ、検証・考察をくり返していくうちに疑問がたくさん出てきた。身近な紙コップにもたくさんの不思議が隠れていることに気がついた。探究心を自らが持って見れば、あらゆる物の本質や性質に気づくことができるのではないかと思いい、今までよりも世界の見方が変わったと思った。</p>		
		
講座番号： 1 2	生物の形態観察『透明骨格標本をつくろう！』	担当者名： 鈴木 優美
実施日： 8月 23日 ( 金 ), 場所： 生物実験室		
参加生徒数： 2 0 名	評価点(20点満点)平均： 1 8 . 8 点	
<p><b>特徴的な生徒の記述</b></p> <p>○ 実験の結果を予想する時に、自分のもっている生物や化学の知識が大切だと分かったので、色々</p>		

な分野について知る必要があると思った。

- 今まで生物の授業で習った内容の応用実験のような講座で、知識が身につけやすかったと感じた。
- 標本にも様々な種類があり、保存の目的や生物の種類によって使い分けられていることを知ることができて、生物の多様性や面白さを学ぶことができた。
- 実験手法をしっかり学んだ上で、自分たちで仮説を立て、それに適した実験を行っていく過程が、探究活動につながっていくと感じた。
- 一つの実験手法にも、メリットとデメリットがあることを学んだ。そこから、自分の目的にあった、手法を選ぶという考え方が課題探求につながると感じた。
- みんなで相談しながら、実験の結果を予想した。予想と違っていてもそこから新たな疑問が湧いてくると思うので、それが探究なのかなと思った。
- 自分が感心をもった内容を、仲間と共に探究していく必要性を感じた。また、その姿勢が2年生の課題探求につながると感じた。
- 標本をつくる時に動物の種類を考えなければならなかったのが、探究活動ガイダンスの「動物の構造」とつながるところがあったと思った。
- 授業で習った内容の応用のような実験だったので、仲間と知識を出し合って協力することで理解が深まると思った。
- 長期的な研究は夏休みにしかできないので良い経験となった。2年生の課題探求は長期的な研究になるので、今回の経験を活かしたいと思った。
- 研究って難しいのかなと思っていましたが、自分で予想して調べて学ぶ過程が楽しいことだと分かりました。

講座番号：13 地理的な視点を通して「課題探究」の基礎を学ぶ 担当者名：吉原 正記

実施日：8月9日（金）、場所：208 教室

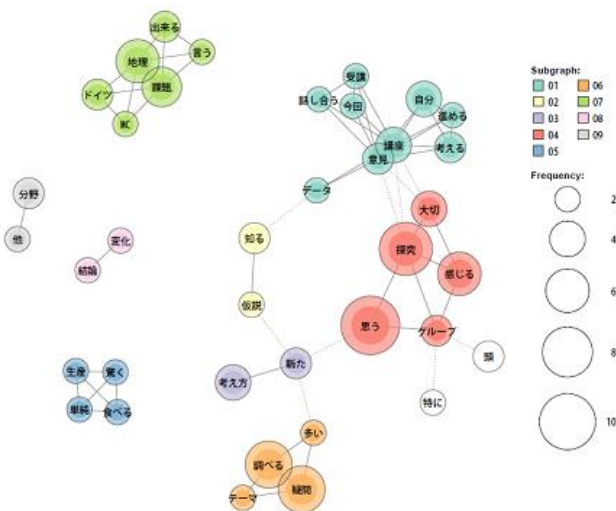
参加生徒数：6名

評価点(20点満点)平均：16.5点

#### 特徴的な生徒の記述

- この講座を受講することによって、課題探究がどんなものなのか漠然としていたものを、かなりはっきりさせることができました。地理分野に関する課題探究の前に、他のテーマについて他の人と話し合ったことで、意見を共有することの大切さを、さらに深く感じるようになりました。以前はあまり地理分野の課題探究と言われてもピンときませんでしたが、今回の講座で地理分野にはいろいろな疑問があり、データなどを用いて調べることができるようになることが出来ました。
- 今回の講座を受講して特に大事だと思ったのは、「頭をやわらかくして考えること」と「グループで話し合い、互いの意見を尊重し合いながら自分たちの答えを導き出すこと」です。1つ目は、何か実験をしたりするときに役立つと思う。2つ目は自分たちが、これから社会に出て行く上で最も大切な能力だと思う。そして、これを意識することで多文化共生にもつながっていくと思う。これからは自分一人で考えるだけでなく、多数の人間で頭をやわらかくしながら議論を進め、探究していくことが大事だと感じた。
- この講座を受けて、データ→グラフ・表→地図という流れでも探究が進められるなどということを知り、そのような身近な事でも探究することによって仮説との違いや新たに分かることがあり、面

白いなと思いました。また、気になった事を探究していく中で、自分をはじめに考えた考え方だけでなく違う見方をしたり、友達の意見をきき、様々な考え方をすることがこれから大切だとも思いました。



「気持ちや考え方の変化」の回答に対する共起ネットワーク

講座番号： 14      心理学研究法入門      担当者名： 松原 正明

実施日： 7月 18日 ( 木 ), 場所：208 教室

参加生徒数： 31名

評価点(20点満点)平均： 17.0点

**特徴的な生徒の記述**

- この講座を通して、心理学ではいかに効率的に調査を行うかよりも、実験対象となる人たちに配慮した調査を行うことの方が大切だと知った。心理学の研究を、人を傷つけないように、また適確に行うのはとても難しいのだと分かった。  
心理学の実験において、倫理的、人道的に配慮しなければならないことを知り、今後の課題探究、実験において常に心がけなければならないと思った。人の心をもとに課題探究をすることはないと思うが、今回学んだ考え方は他の実験に有効活用できるため、しっかりと覚えておきたい。
- 理科の研究と同じような順序で心理学の研究も行われていて、研究の進め方はどの分野でも共通なんだと感じた。
- (一日研究員体験において) モンキーセンターでリスザルの観察をしたが、リスザルに対する観察の仕方は人間に対しても応用できるのではないかと考えた。
- MCでは、まず自分が気になったことを調べることから始まるので、今回学んだ観察法からテーマによって適切な方法を選べばよいし、サンプリングも場面によって使い分けて記録すれば、深い研究ができると思った。
- 心理学を学ぶと同時に『実験のプロセス』というものを学べたと思います。また、これから行われる実験の問題点を話し合うことで、実験の目的を再確認し、よりよい方法が浮かぶと思いました。
- 数学や理科とは異なったパターンの研究について知ることができたので、研究に対する考え方の幅が広がった。
- 今まで私は、どのような研究を行うかばかり考えていましたが、その前の段階で一度立ち止まっ

て考える必要があることに気づかされました。心理学は人間を対象にして研究を行うので、相手に十分な気配りをして研究を進めたいと思いました。